



## 遊学舎武雄こども園 園だより

2025(令和7)年3月号

### 「174のこころ」

ある日の朝、登園してきたときに「もうすぐパパと〇〇ちゃん(妹)の誕生日!!」と、1~2か月前よりおしえてくれていた男の子。3月に入り、さくらぐみ入り口のホワイトボードの日付を指差して、「ここがパパの誕生日!」と、自分のことのように喜んでいる姿があり、私は昨年もこの子の同じ光景を目にしていたことを思い出しました。

自分のことのように、家族の誕生日をこんなにも喜ぶ瞬間が自分にもあったのだろうか・・・私はこの子の喜ぶ瞬間に出会えたこと、担任をさせていただけただけなのに、とても幸せを感じました。

いよいよ22日に卒園式を迎えます。子どもたちがやりたいことに向かって夢中になっている姿、諦めずに挑戦する姿が私は大好きでした。これからもそんな姿がずっと続きますように。子どもたち一人ひとりが輝き続けますように。





3月22日、いよいよ年長さんが卒園を迎えます。小さい子への思いやりのじがぐみさんと伊ひ、本当に優しい優しい年長さんでした。優しくできるということは、人の痛みや痛みがわかるということ。きっとこの優しさや慈しみの気持ちには、のちに大切な人や物を守る力に変わっていくのでしょう。この「思いやりの気持ち」は、これからも武蔵野こども園で受け継がれていくはずです。さくらぐみさん、たくさんのお優しさをありがとうございます！

先日、ある職員が生まれてすぐの頃の写真と共に、保育園で使っていた連絡帳とシール帳を見せてくれました。その連絡帳には担任の先生とのやりとりのなかで書かれた「末っ子の甘えん坊で」といったお母様の丁寧な字があり、当時よく遊んだためについたであろう汚れのある名前札もそっと大切に挟まれてありました。更には産声を録音したカセットテープも。「私が20歳になった時、お母さんから渡されたんです。」と、一つ一つ丁寧に説明してくれた彼女の顔は恥ずかしそうで、しかしそれ以上に、何とも言えず幸せそうでした。そして、成人したら渡そうと、ずっと大切にしまっていたお母様の思い。

さくら組の保護者の皆様、今月お子様がこども園を巣立ちます。お子様が生まれて初めて一緒に過ごした夜。それは、我が子の誕生があまりに奇跡のようで、寝て起きたら、夢からさめてしまうのではないかと思う一抹の怖さを抱えて眠りについた夜。自分以上に大切なものに出会える日が来るとは。あの日から、自分のことよりもお子様を優先してこられた6年間。その答えが、今の目の前にいらっしゃる優しさという強さを秘めたお子様の姿です。皆様が深い愛情と共にお子様の育ちに寄り添ってこられた日々が生み出した姿です。自分より小さな子を慈しみ、人の痛みを寄り添う心が自然と備わっていたさくら組の子どもたち。その心は、生涯に渡ってお子様を支える力となるでしょう。

成長するにつれ、暑い日も寒い日も、当たり前のように繋いでいた手と手に段々と距離ができ、当たり前のように車で送迎していた道を自分一人で歩き、当たり前のように一緒に過ごした休日はお友だちと過ごすようになり、見えない部分が増えてくるかもしれません。しかし、離れれば離れるほど、環境が変われば変わるほど、皆様の愛情はより鮮明に、揺るぎないものへと変化していく。そしていつかお子様が大切な人を見つけた時、その愛情はしっかりと受け継がれていくでしょう。

さくら組さん、保護者の皆様、ご卒園、本当におめでとうございませす。私たちはお子様のことも、保護者様のことも、ずっと応援しています。愛情というもの、ずっと色あせず、むしろ日を重ねるごとに深まっていくものだと思じて。